資料6

市　民　委　員　会　プ　ロ　ジ　ェ　ク　ト

平成２３年８月３１日現在

１．緊急産業復旧プロジェクト・・・別途提案書・・・産業部＋漁協（漁業関係者）

・将来の構想と同様に当面の生活の糧を確保することも重要な課題。その産業の中でも圏域の８割が関連する漁業水産加工業がその鍵を握るが、相互に絡み合う本業界は様々な施設と業種を同時に復旧させる必要があり、それを具体的に進めるプロジェクト。

２．世界一の魚市場プロジェクト・・・別途提案書・・・産業部＋漁協（漁業関係者）

・当市の中心産業である漁業、そしてその活動の中心である魚市場。観光資源ともなりえるこの施設を様々な角度で世界一に作り上げ、本来の機能でも、観光資源としても、当市最大の武器にしようというプロジェクト。緊急産業復旧プロジェクトに引き続き展開されるべき。

３．造船所の協業化(シンクロドッグ)プロジェクト・・・別途提案書・・・産業部＋造船業界

・被災後、地盤沈下により船台が短くなり移転を余儀なくされた造船業界。今回を機会に業界での多重投資を止め施設の協業化で競争力を向上させると同時に、漁船以上の船を上げられる船台とし、全国屈指の技術を武器に、需要の拡大を狙うプロジェクト。

４．グリーンベンチ工法による嵩上げプロジェクト　・・・建設部＋環境課＋自然派市民

・防潮堤、嵩上げ、護岸、河川整備。防災を考慮した今回の市土の復旧整備には様々な土木工事が発生するが、従来のコンクリート工法よりも安全で、環境に優しいと言われるグリーンベンチ工法を研究し、経済性も含め、どこでどのように活用すべきか検討採用するプロジェクト。

５．再生（自然）エネルギー導入プロジェクト・・・企画部＋スローフード協会

・『環境に配慮したまち』『自然と産業が調和するまち』の指針の元、再生エネルギーの積極的導入をすべきと提言しているが、太陽光発電、波動発電、風力発電等の自然エネルギー、更には燃料電池等の脱炭素エネルギー、ガスタービン発電等の高効率の発電システムも含め、あらゆる次世代エネルギーの導入検討と、それらをまち全体で電子制御し経済的に相互利用するスマートシティ構想や循環型社会の構築を検討するプロジェクト。

その先には食・味・その背景となる文化・環境・伝統・風土を大切にするスローフード運動（都市宣言）から更に進んだ、全てに持続発展可能な都市運営を目指すスローシティ構想まで視野に入れたプロジェクト。

６．震災公園、ＧＥＯパーク整備プロジェクト（モニュメント）

・被災船、地盤沈下場所等の保存と合わせ、防災教育や防災観光の拠点となる公園とその近隣の商店街等のまちづくりの検討と整備のプロジェクト。

７．セントラルパーク（ユニバーサルデザインの公園）整備プロジェクト

・災害対応型の様々な機能を併せ持った自然公園、まちのランドマークとしての中央公園の検討整備のプロジェクト。

８．商店街の再生　　商工課＋商工会議所

・市中心部の複数の被災商店街の各商店の復旧と新たな商店街の立地、コンセプトの検討と再生へ向けてのプロジェクト。

９．水産特区活用プロジェクト　　水産課＋若手漁業家

・宮城県知事提唱の水産特区。これを当圏域でどのように導入活用すべきか、水産関係者による積極的活用方法検討プロジェクト。

１０．街中アートプロジェクト

・瓦礫を使った芸術や手軽に芸術に触れられる場所を街なかに創造していくプロジェクト。

１１．防潮林・照葉樹林整備プロジェクト

・地元の植物のうち、防潮林に適した多様な照葉樹を検討し、圏域の適所に植え、防潮林を形成していくプロジェクト。

１２．地域文化・郷土芸能保存継承プロジェクト　　教育委員会＋観光課＋芸能団体

・生業と一体不可欠の文化（食、郷土芸能等）を圏域内に継承していくための拠点、或いは市民や観光客が体験し身に着けることの出来る場の検討整備プロジェクト。リアスアーク美術館などの活用も期待される。

１３．水源の分散化（安全な水辺づくり）プロジェクト

・インフラの一極化を防ぎ、緊急時の水源を多数確保しておくため、市内各所の水源情報をまとめるとともに安全に汲み出し可能とし、普段から親水性のある観光地にもなり得るエリアに整備するプロジェクト。

１４．復興住宅整備プロジェクト（高台、公営集合）

・建設に時間のかかる復興住宅、復興集合住宅の早期の希望調査からデザイン、昨日、周辺のまちづくりまで、検討建設していくプロジェクト。

１５．海岸線減災（防潮堤、防波堤）プロジェクト

・国、県の海岸線整備の方針を受け、住民の希望調査、岸壁および沖合での効果的な防災減災の研究を推進し、当市の海岸線整備の方針を検討決定する。

１６．みんなのバスプロジェクト

・仮設住宅からの交通手段を検討すると同時に、従来からあった市内循環バス、通学・通院・通勤も兼ねた市民の足の検討プロジェクト。小さい路線を網羅させ乗り換えである程度市内を縦横に行き来できるようにし、また宮城交通と市内非路線バスの共同運行により往来頻度をあげ利便性を出し、更にスローシティーの観点からマイカー通勤をナンバー規制するなどバス利用をルール化により促進する一方で１日乗り放題料金の設定など利用者のメリットもはかる等の様々な実施案を検討、住みやすさと生活のダウンサイジングの可能性を検討、実現するプロジェクト。

１７．企業・大学・研究機関誘致プロジェクト

・市長のトップセールス以外で、対象機関の誘致策を検討実施するプロジェクト。企業誘致も合わせて行う。

１８．観光メニュー開発プロジェクト　　観光課＋観光コンベンション

・月一回始まる市内観光業者の全域での情報交換の場を進化させ、全市的に観光客を拡大させるメニューを開発するプロジェクト。

１９．ＮＰＯ、ＮＧＯの積極的活用プロジェクト

・復興計画でやるべきものが明確になったものの中で、市の各担当課のみではマンパワ

一的に、或いは機能的に、或いは経験値的に対応が困難であることが予想される項目についてはそれらをまとめ、ＨＰ或いは関係団体への調査を行いながら、内容・期間・担当地区などを明示しながらその任務に長けたＮＰＯ・ＮＧＯを公募する。市の統括課は全市にＮＰＯ・ＮＧＯを組織的に配置すると同時にこれらＮＰＯ・ＮＧＯと協議しながら全市を統括する役割を担う、と言うＮＰＯ・ＮＧＯ・社協と市の関係を構築するプロジェクト。定期的な会合を行い全市の整合性をはかりながら、地域の要望も聞き、その後に備える体制をつくる。

２０．シンボルイベント（Ｆ－１）開催プロジェクト

・市土基盤、産業再生、防災体制、環境・エネルギー、地域ケア、教育、地域コミュニティー、推進体制、様々な復興計画のテーマを検討して来たが、これらを全て整備していくと、防災・、街づくり・観光・自然保全・教育などあらゆるの面において元来気仙沼の持つ素晴らしい素材をフルに活かした世界基準のまちを目指すことになる。この時、漠然と素晴らしい街を目指すのではなく、同じ方向の先に世界的なイベントを具体的に掲げて目標を置き換えることが出来る。目標は具体的で明確な方が解り易く、根本の意味を含め、漠然とした目標より世代も受け継がれ、達成まで受け継がれていく可能性も高い。よって非常に気の長いプロジェクトになるかもしれないが、こうした復興の証となるような目標イベントを検討設定し、追いかけ続ける体制を作るプロジェクト。

以上の様なプロジェクトを各々市民参加で一斉に立ち上げ､月一回づつでも開催することにより、目的の成果はもとより、職員にある程度任せてしまうことによって、市担当部署と共同作業をする関係者の有意義な情報交換と人間関係が構築されるとともに、大勢の市民が使命感を持って市制および気仙沼市の復興に参画でき、まちの一体感が醸成されるのではないかと考える。